

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270700303		
法人名	株式会社 和芳		
事業所名	グループホーム双葉		
所在地	千葉県銚子市松本町2-810-10		
自己評価作成日	平成26年11月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成26年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者のこれまでの生活スタイルを大切に考え、安心して過ごせる家庭的で暖かい施設づくりに取り組んでいます。入居者も高齢になり車椅子を使用する方が増えていますが、全面バリアフリーになっていて十分安心して過ごせるようになってきました。リビングホールに設置してある床暖房は、とても暖かく快適に過ごせる環境づくりに配慮しています。また、協力医療機関との連携を密にし、随時対応できる態勢を整えています。家族の来訪も多く、関係を深めグループホームを理解していただく機会ととらえています。市関連や地域の方々の訪問、見学も多く交流を深めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム 双葉」は併設施設に小規模多機能ホームがあり、行事等を通じて交流を図り、入居者の生活の活性化に繋げている。「利用者の主体性の尊重」を理念に掲げており、入居者本位の自由な生活を支援している。また、家庭的な施設作りを目指し、入居者と職員が笑顔で楽しみを共有できるよう暖かみのある支援を行っている。医療面においては、定期・随時に内科医・歯科医による往診を実施していると共に、訪問看護を実施しており、適切な受診・体調管理を支援している。その他にも、職員の資格取得・外部研修の参加を積極的に促しており、適切な人材育成にも努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時、事業所の基本理念に基づいた支援、介護を実践しているか確認しあっている。また、運営方針や目標を話し合い理念の実施に取り組んでいる。	「利用者の主体性の尊重」「家庭的なやさしい共同生活の場の提供」「地域や家族と共に支援していく環境作り」を主眼とした理念を掲げており、事業所内へ掲示している。職員の入職時に研修を実施すると共に、定期的に理念に基づくサービス内容を確認する機会を設けており、職員間での理念の共有に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の住民の方々や保育園児の散歩時に談笑し合えるなじみの関係を築いている。双葉ニュースを隔月発行し地域に回覧したり、ボランティアの受け入れで交流を深めている。	地域住民とは、日頃から挨拶を交わす関係を築いていると共に、町内会への加入・地域行事への参加等を通じて、交流を図っている。また、定期的に広報誌「双葉ニュース」を地域に回覧する等、施設理解の促進に努めている。その他にも、地域の中学生・実習生の受け入れを行っており、世代間交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方への対応方法について、市役所・認知症サポーターズ講習への協力、参加を行っている。また、研修生の受け入れや地域中学生の職場体験学習の受け入れも行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に1度開催し、利用者の状況説明、行事、ボランティアの受け入れ等の報告及び意見交換を行っている。また、外部評価結果について書面により報告を行っている。	運営推進会議を2か月に1回開催しており、地域包括支援センター職員・民生委員・町会長・地域住民・家族・入居者等が出席している。議題として、施設の活動報告や意見・情報交換を行っており、施設理解の促進及びサービスの質の向上に繋げている。また、ヒヤリハット事例等の報告・改善の検討を行う等、施設運営の透明化にも努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の高齢者福祉課が開催する認知症ケア会議や研修に参加し、他事業者と情報交換したり、事例を通じて対応策を協議したり、相談したりして良好な協力関係を築いている。	日頃から市に対して、業務における相談や報告を随時行っており、連携を図っている。また、認知症ケア会議等への参加を通じて、地域の同業者との意見・情報交換を行う機会を設けている。その他にも市主催の研修等に参加しており、サービスの質の向上に取り組む協力体制が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	適切な介護のためのマニュアルを配布し、実践に生かせるようにミーティングを行っている。県主催の研修会への参加や市の認知症ケア会議で意見を聞いたり、身体拘束の具体例を職員全員が理解し業務に生かしている。	身体拘束排除における施設方針・理念を明文化し、施設内に掲示していると共に、全職員の「権利者擁護・身体拘束排除研修」受講を勧めている。日中は玄関の施錠は行わず、入居者の自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝礼、定期ミーティングで具体的な虐待事例などを理解し、虐待のないよう全職員で取り組んでいる。また、研修会への参加を積極的に実施して虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	千葉県や公的機関で開催する研修会や講習会等に参加しその必要性や活用法を学んでいる。成年後見人を介しての利用や支援実績もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	各専門スタッフが、契約時や解約時には利用者や家族に不安や問題点等尋ね、わかりやすいように説明し納得が得られるよう丁寧な説明を心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。アンケートの実施や家族来訪時に要望や苦情等を聞き、利用者の意見や不満等は個別に話し合う機会を設けたり、他事業所のケアマネ等への相談を促すなど運営や支援に反映させている。	家族の訪問時・電話連絡時等を活用して、直接意見・要望等を確認している。挙げた意見や要望においては、会議・申し送り・連絡ノートを活用して、職員へ周知・検討の上、適切な改善を図っている。また、職員の入職時には、家族に紹介する等、信頼関係の構築に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回運営会議を開催し、運営者を交えて直接意見や提案を話す機会を設け運営に反映させている。	定期的に会議を開催していると共に、申し送りや連絡ノートを活用して職員からの意見・提案等を確認する機会を設けている。また、資格取得や研修参加を促す他、希望休・有給休暇の取得に配慮する等、働きやすい職場環境の整備にも努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度も介護職員処遇改善加算を申請し、介護職員の収入増を図った。また、職員が働きやすい環境整備にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院内研修や、地域で開催する研修に参加し介護の向上に努めたり、通信教育・資格取得・各種講座への受講支援の充実を図り、その研修報告を行行情報の共有に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワークや地域部会を通じて勉強会に参加し、困難事例の問題を共有したり、意見交換をしながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望に沿えるように話しやすい環境作りを心掛けている。相談時から利用に至るまでの不安解消に努め、要望を取り入れて安心して暮らすことができるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来訪時や電話相談があったときは、職員全員が真摯に時間をかけて傾聴し、困難事項や今一番求めていることなどを受けとめるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に提供票等を参考にし、本人・家族が何を必要としているかを見極め、必要に応じて他のサービスの利用などアドバイスできる体制をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の後片付け、洗濯物をたたむなど、一緒に作業しながら日常生活の中で、細かい相手への思いやりや、各自の想いに触れ、時に学び、時に支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	支援困難時や本人が不安そうな時は、家族の方にもホームに出向いていただいたり、電話で相談するなど、介護について協力いただいている。第三者を交えた家族会を開催している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人知人の訪問が気軽にできるよう施設を開放している。家族との外出や外泊は自由になっており、本人と家族の関係維持に気を配っている。	入居者の知人・友人の来訪は随時受け付けていると共に、家族との外出・外泊も自由になっており、馴染みの関係継続を支援している。また、地域行事への参加・商店の利用・外出行事の実施等を通じて、新たな馴染みの関係構築及び馴染みの場所への外出等を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係や、それぞれの残存能力を生かしてお互い支えあえるような関係になれるよう配慮している。それぞれの性格を生かし、手伝いあったり、助け合ったり、また世話役の方がうまく力を発揮できるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了したとしても、家族が訪問しやすく、相談しやすい雰囲気を作るよう常に心掛け、相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の体調や気持ちの変化に合わせた意向の汲み取りができるよう家族とも連携しながら対応している。また、職員全員で情報を共有して本人本位の暮らし方ができるよう日々検討している。	契約時に本人・家族から意向・身体状況・生活歴等を確認すると共に、医療機関や他サービス事業所からも情報提供を受けており、より詳細な情報の把握に努めている。また、会議・連絡ノートを活用しながら職員間で常に新しい情報を共有できる体制を整えている。	

【千葉県】グループホーム 双葉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から今までの経験や生活歴を把握し、本人の馴染みの暮らし方を理解するように努めている。また、これまでのサービス利用の経過等を把握したうえでその人らしい暮らしや尊厳が保てるように支えていく努力をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方や心身状態、現状で保有している心身の能力を客観的に把握し、本人が暮らしやすいように支援できるよう、常に職員間で情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族等の想いや望みを把握し、可能な限り介護計画に取り入れるようにしている。介護計画は職員全員で意見交換し、本人本位に立って計画作成者がまとめ作成している。	入居者・家族の意向を確認した上で、職員間で検討を行い、介護計画を作成している。定期的に目標の達成状況の確認及び評価を行っており、必要の際には介護計画の見直しを図っている。入居者の主体性を大切にしながら介護計画の作成に努め、その人らしい生活が支援できるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づきケアを実践し、結果や気づき、工夫を個別記録に記入している。それを全職員が目を通し、日々新しい情報を共有しながら支援に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接する小規模多機能ホーム双葉利用者との交流や共同支援により、生き生きとした生活が送れるよう取り組んでいる。また、その時々々の要望に対応できるよう、各分野から専門スタッフのアドバイスを受け柔軟な支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の生活の安定を支援できるよう、必要に応じてボランティア、民生委員、警察、消防、教育機関等の協力が得られるように働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が希望するかかりつけ医への受診には、職員と家族協力して適切な医療を受けられるよう支援している。受診事実を記録し、家族へ随時報告するようにしている。必要に応じて管理者と共同してかかりつけ医への相談を行うなど、適時に医療とスムーズに連携できるよう支援している。	希望のかかりつけ医への受診が可能となっており、希望に応じて、受診の付き添いも支援している。また、定期及び随時、内科医・歯科医の往診を実施しており、適切な受診支援がなされている。吸引器・酸素吸入器等の医療機器も導入しており、入居者の身体状況に合わせた適切な支援体制が敷かれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーション双葉との協働により、利用者の変化を把握し、看護、介護に生かしている。また、地域の看護職員との連携もとれていて気軽に相談できるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携体制は整っている。医療機関と今後の対応について情報交換を欠かさないようにしている。また、安心して治療に専念できるよう態勢を整え、入退院に支障のないようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けて、家族、医師、職員、看護師で話し合いケア方針を共有している。日常生活での変化や体調に注意し、機能低下に対応した態勢を築いている。また、終末期に関して、方針の説明し、同意書を受領して介護計画を作成している。	重度化・終末期における施設方針を説明し、同意を得ている。また、必要に応じて、終末期における意向や延命に関わる意向を確認し、職員間で情報を共有している。必要な場合には、医師・看護師と相談しながら施設としてできる限りの支援が行えるよう協力体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変利用者対応、事故発生時の対応等のマニュアルを作成済み。日頃から利用者の身体的特徴の把握、事故対応等の職員研修を実施。また、応急手当、初期対応の訓練を定期的実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成。避難経路図を掲示し、いざというときに備えている。消防避難訓練を年2回実施。特に、夜間人手不足時の対応に近隣の協力が得られるよう訪問し協力依頼している。運営推進会議メンバーへの協力依頼やニュース回覧を活用している。	火災報知器・スプリンクラー・自動通報機等の消防設備を設置すると共に、定期的に消防避難訓練を実施している。訓練では、想定内容を工夫し、様々な状況に応じた避難方法を確認している。また、定期的に設備点検を実施する他、スプリンクラーの操作確認を行う等、緊急時・災害時における対策の万全かを図っている。訓練の実施状況を施設広報誌及び運営推進会議を活用して、地域住民に告知・報告しており、緊急時・災害時における協力を呼び掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性や人格を尊重し、誇大な言動や非現実的な言動であっても、穏やかな心で傾聴し「寄り添う介護」を心掛けている。個人のプライバシーを尊重し、プライドを傷つけないよう、無断で侵害することのないよう周知している。	理念に「入居者の主体性の尊重」を掲げており、一人ひとりの性格・個性を踏まえた上での支援方法を工夫している。接遇・プライバシー保護に関する研修・指導を行い、適切な人材育成に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者への言葉かけに心掛け、希望の表出には静かに傾聴し、気軽に何でも話せる環境作りを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に傾聴し、優先順位を見極め、十分なコミュニケーションを取りながら、日々の生活や時間を大切に過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族に協力いただき、本人の好みのものや衣類を用意していただいている。それが困難な時は職員が用意したりして希望に沿えるよう支援している。定期的な美容師の来訪で身だしなみも整っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間は大切な時間であり、体調が悪くない限り同じテーブルで会話をしながら楽しく食事がとれるよう支援している。食事前後のテーブル拭きやトレー拭き、下げ膳など、可能な方(数人)は楽しそうに行っている。	献立においては、職員の希望を確認しながら職員が行っており、食材の購入は、職員と併設の小規模多機能ホームの調理スタッフが行っている。定期的に外食会・行事食・手作りおやつ等を実施しており、食に対する楽しさを提供している。また、身体状況に合わせて、刻み食・ミキサー食等を実施する他、嗜好に合わせて代替えメニューを行う等、適切な食事量の確保に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を把握し、少ない場合は間食等で補うなど、本人が必要な水分補給できるよう配慮している。他事業所の栄養士の支援によるバランスのとれた献立を、介護者は利用者の能力、好みに合わせて食べやすいように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがい、義歯の洗浄を行い、口腔内の清潔保持に努めている。飲み込みが悪い利用者が増えているため誤嚥性肺炎にならないよう気を配っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックリストを活用して、一人ひとりの排泄の状況を職員全員で把握している。トイレに行きたいときの行動サインを見守り、声掛け誘導、身体状況に応じた介助を支援している。	排泄チェック表を活用しながら個々の排泄パターンを把握しており、仕草や状況に合わせて声掛け・トイレ誘導等を行い、おむつ・パットの使用頻度軽減に繋げている。また、食事内容や水分摂取を工夫すると共に、看護師・医師への相談を行いながら、適切な排便コントロールに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスのとれた食事、こまめな水分補給、毎日牛乳を飲む習慣や、体操や散歩、身体を動かす働きかけをしながら便秘予防に取り組んでいる。好みの飲み物で無理なく水分補給を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	風呂場に暖房機を導入して、より快適に入浴できるようになった。また、入浴が楽しい時間になるように職員1対1で対応。入浴を拒む場合は、本人の希望に添えるように清拭や陰洗や衣服の交換などで、清潔に過ごせるよう支援している。	入居者の希望・体調に応じて、回数等を柔軟に対応しながら適切な入浴機会を確保している。また、必要に応じて、清拭・シャワー浴・部分浴を実施しており、入居者の清潔保持に努めている。リフト浴槽が設置されており、入居者の身体状況に合わせた入浴支援がなされている。その他にも、今年度、浴室にヒーターを導入し、ヒートショックの防止を図ると共に、快適な入浴に向けた設備の充実化を図っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	早起きの場合、朝食後に自室でゆっくり休息を取りたいなど、一人ひとりのプライベートな時間を穏やかに過ごせるように支援している。適時に見守り、声掛けして、安心してできるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の確認、すぐ目を通せるように個人服薬ファイルを作っている。服薬が変わったときは伝達して服薬後の変化があれば随時Drに報告するようにしている。		

【千葉県】グループホーム 双葉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごすように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別の好きな事へのやりがいを見つけ無理なく行えること(新聞を読んで聞かせてくれること、お盆を拭いてくれること、エプロンをたたんでくれること等)を支援している。また、庭の苗木や草取りも好きな事の一つとして手伝ってもらうことがある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に同行して公園で日光浴。希望があれば、ファミリーレストランでの外食やスーパーでの買い物の支援。また、花見で季節を感じられるように外出支援している。好きなお菓子をドライブしながら買いに行ったりして、なじみの店の人との交流を支援している。	日頃から散歩・ドライブ等の外出支援を実施していると共に、施設敷地内に菜園・花壇を設けており、気軽に外の空気を楽しめるよう工夫している。また、併設の小規模多機能ホームの行事等に参加する事も可能となっており、入居者の生活の活性化に繋がっている。その他にも、外出行事を定期的に企画・実施しており、戸外での楽しみを提供している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や力量に応じ、お金を所持したり使えるよう支援している。家族との外出時に買い物をしたり、職員と一っしょに買い物に行き、必要なものを買ったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望を聞いて、ホームの携帯電話で家族に連絡し談話している。知人や家族の来訪後のお礼の電話なども行えるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは窓から庭が見え、ハナミズキ、アジサイ、あさがお、チューリップなど花が彩り、日当たりもよく、明るく、ホールの床暖房も穏やかに居心地良く過ごせています。トイレは介助のたびに除菌し清掃を実施して、気持ちよく使用できるようにしている。	施設は平屋建てでバリアフリーとなっており、入居者の安全面に配慮した作りとなっている。共有スペースには、ソファ・テーブル等が設置されていると共に、床暖房が設置されており、温かく居心地の良い環境整備がなされている。また、庭には、季節の花や野菜が栽培されており、季節感を楽しめるよう工夫している。	

【千葉県】グループホーム 双葉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席は自分の居心地の良い場所で過ごせるように工夫している。利用者同士が協力しあえる席になっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の希望により、馴染みの家具や身の回り品、衣服の持ち込みで今までの生活が継続できるようになっている。本人の好きなスターの広告や、家族の写真を飾っている方もいる。また、全居室にエアコンを設置、過ごしやすい空調管理を心掛けている。	入居者・家族の希望に応じて馴染みの家具等を持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活できるよう配慮している。また、テレビ・ポータブルトイレ等を設置する事も可能となっており、入居者の身体状況・生活歴に合わせた居室作りがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全面バリアフリー、、手すりを増設し、歩行やトイレ誘導が安全、スムーズに行えるよう配慮している。できるだけ自立した生活が送れるよう改善工夫している。		